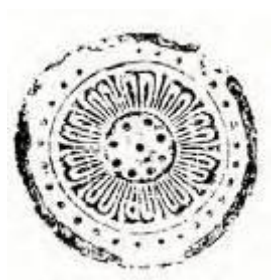


大分市歴史資料館年報

(令和元年度)



2020

はじめに

令和元年度の大分市歴史資料館年報をお届けします。

本年度の展示事業は、「解体新書の世界」・「豊後の南蛮文化」・「江戸・明治の木版画」の3回のテーマ展示と、特別展「大分の禅」を開催しました。

「解体新書の世界」では、当館が所蔵する「解体新書」初版本を中心として西洋から日本にもたらした文化・技術・学問を紹介しました。「豊後の南蛮文化」では、「南蛮屏風」および「イエズス会士日本書簡集」、南蛮兜を通して異国情緒あふれる豊後府内の町のような南蛮文化について紹介しました。「江戸・明治の木版画」では、色鮮やかに刷られた相撲絵・役者絵をはじめ「東海道中栗毛野次馬」といった物語絵などを通して、江戸時代から明治時代にかけてつくられた木版画の魅力を紹介しました。また、テーマ展示「江戸・明治の木版画」では、多色刷り版画の仕組みが体験できるスタンプや歌川広重作の「即興かげぼし尽くし」にある影絵を体験できるコーナーを設け、子どもから大人まで多くの方々に楽しんでいただきました。

特別展「大分の禅」では、中国から伝わった黄檗宗の寺院を府内の豪商が開いたこと、江戸時代を代表する禅僧の白隠禅師や古月禅材と大分との関わりを通して、大分における禅文化の広がりを紹介しました。展示期間中には、禅宗寺院関係者をはじめ、多くの市民が来館しあらためて「禅」に対する関心の高さがうかがえました。

教育普及事業では、考古・歴史・民俗文化史・古文書の「ふるさとの歴史再発見」講座を全17回、勾玉づくりや古代火起しなどの「ふれあい歴史体験講座」を市民学芸員と共に全17回開催しました。民俗文化史の講座では歴史資料館に隣接する豊後国分寺跡史跡公園を中心として、周辺の史跡や民俗文化財をテーマとしたウォーキングを実施し、地域の方も含め参加をいただきました。5月5日の子供の日には竹トンボや竹馬・独楽などを使った「昔のおもちゃで遊ぼう」、8月1日には国分寺跡史跡公園めぐりや鏡作りなどを行った「夏休みジュニア歴史体験」を開催しました。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月21日より臨時休館となり、「ふるさと歴史再発見講座」および「ふれあい歴史体験講座」も一部中止となりましたが、総利用者は昨年より1,087人上回る44,433人という結果となりました。今後も市民ボランティアの方々と手を携えながら、多くの来館者に歴史を様々なかたちで楽しみ学んでいただけるような資料館づくりに努めて参りたいと考えております。最後になりますが、当館の活動に日頃からご協力をいただいております関係各位に深くお礼を申し上げますとともに、温かいご支援を今後とも賜りますようお願い申し上げます。

令和3年5月1日

大分市歴史資料館
館長 植木和美

目 次

展 示	1
テーマ展示 特別展 その他の展示 まちかど歴史展示館	
資料調査	22
資料収集	26
教育普及活動	29
歴史資料館利用状況	36
管理及び運営	37
歴史資料館協議会 組織機構 分掌事務 職員 歳入歳出	
施設管理業務の内容	
施設の概要	39
利用案内	40

展 示

I. テーマ展示

第1回「解体新書の世界」

会期 4月27日（土）～6月9日（日）

開館日数：39日 入館者数：2,434人

当館所蔵の『解体新書』初版本を、広く市民の皆さんへ紹介する展覧会を開催した。

『解体新書』は、江戸時代にオランダ語の西洋医学書を翻訳したもので、郷土の先人・中津藩医の前野良沢や小浜藩の藩医を務めた杉田玄白らによって出版されたものである。

本展覧会では、『解体新書』がもたらした日本諸科学の発展の歴史をさまざまな資料を展示して解説を行った。



「I. 解体新書の展示状況」



「II. 蘭学の興隆の展示状況」

主な展示構成・展示品

〔I. 解体新書〕

『解体新書』初版本、1巻～4巻、付図

〔II. 蘭学の興隆〕

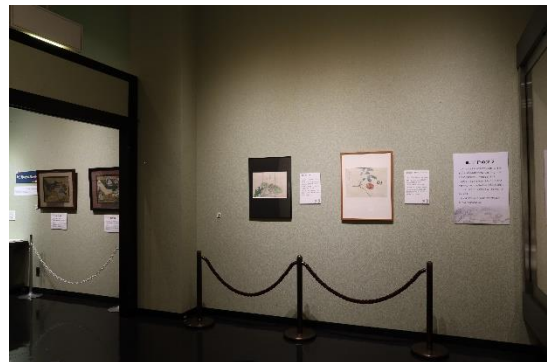
「長崎図」／『日本山海名産図絵』

〔III. 江戸の実学〕

「嘉永井路絵図」／「泥絵」

〔IV. 近代医学のあけぼの〕

『解剖攬要』／『治験録』



「III. 江戸の実学の展示状況」

解体新書の世界

2019年度 テーマ展示I

会期 2019 4.27(土) 6.9(日)

利用案内

■観覧時間 午前・午後（入館は10分前まで）
 月・日 月曜・日曜の両方とも休館
 ※休館1日（休館日は要予約、要予約が保証）
 観覧時間 12月28日～1月4日

■観覧料 大人 200円 中学生 100円 小学生 50円
 幼児 30円 未満児 無料
 ※観覧料は、観覧券と併用して利用可能。観覧券は、観覧料を支払った上で、観覧券を提示して利用可能。

■大分市歴史資料館 ☎097-549-0880
 〒870-0054 大分市中央1-1-1 ☎097-549-5766
 ※観覧料は、観覧券と併用して利用可能。観覧券は、観覧料を支払った上で、観覧券を提示して利用可能。

ポスター



「IV. 展示解説の様子」

第2回「豊後の南蛮文化」

会期 7月13日(土)～8月25日(日)

開館日数：38日 入館者数：1,882人

戦国時代の異国情緒あふれる豊後府内の様子や日本で開花した南蛮文化を、当館所蔵の屏風や宣教師の報告書などを展示して解説を行った。

また、南蛮屏風に描かれた生き物を探す参加型の解説も行い、入館者の好評を得た。

主な展示構成・展示品

【第Ⅰ章 南蛮貿易と豊後】

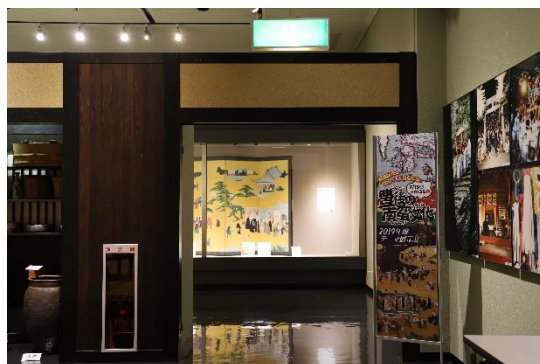
「南蛮屏風[模写]」 原本：神戸市立博物館所蔵／「ティセラ 日本図」

【第Ⅱ章 宣教師がもたらしたもの】

『イエズス会士日本書簡集』（ドイツ語版）／「コレジオの図」『ローマ教皇グレゴリオ13世伝』

【第Ⅲ章 花開く南蛮文化】

「南蛮兜」／「花鳥文蒔絵螺鈿洋櫃」



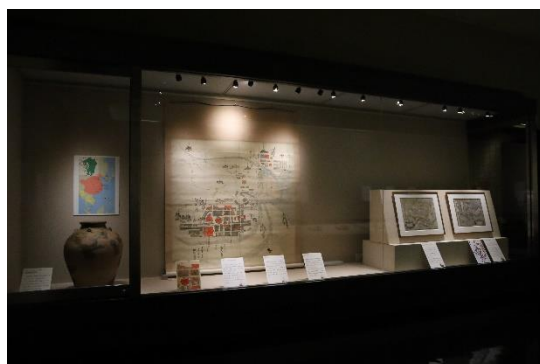
「テーマ展示室入口の様子」



「第Ⅰ章の展示状況」



ポスター



「第Ⅰ章の展示状況」



「第Ⅱ章の展示状況」

第3回「江戸・明治の木版画」

会期 1月25日(土)～3月20日(金)

開館日数: 55日 入館者数: 3,046人

本展では、江戸から明治時代にかけてつくられた挿絵や浮世絵、玩具絵などを展示し、木版画の魅力と歴史を紹介した。

また、木版画の魅力を入館者に分かりやすく伝えることを目的に、木版画体験や影絵体験を行った。なお、会期終盤に、新型コロナウイルス感染防止のため、展示の中断を余儀なくされた。

主な展示構成・展示品

【第一章 人気者の「プロマイド」】

浮世絵「勸進大角力取組図」／「尾張屋内長登」／「歌舞伎 役者絵」

【第二章 旅心をかきたてた風景】

「東海道中栗毛弥次馬」

【第三章 伝えられた事件や知識

錦絵「豊後鶴崎戦争」

【第四章 紙の上に広がるあそび】

「即興かげぼし尽くし」



「テーマ展示室入口の様子」



「展示会場の様子」



ポスター



「影絵体験の様子」



「木版画体験の様子」

Ⅱ. 特別展

1. 第38回特別展

「大分の禅」

—中国の禅文化を追い求めた歴史—

今回の特別展は、鎌倉・室町・江戸時代と時を重ねて移り変わった大分の禅文化を紹介する展覧会で、鎌倉時代に豊後の守護大友氏が開基した禅寺の「萬壽寺」を端緒に開花した大分の禅文化が、室町時代には豊後の茶の湯の文化が京都・大阪にまで知れわたるほどに発展した歴史などを禅寺の名品や大友宗麟公ゆかりの品を集め、展示解説を行った。

また、江戸時代には、商人が最新の禅文化を豊後府内にもたらした事実を、江戸時代の初公開（初出品）の史料などから紹介した。

具体的には、江戸時代はじめに黄檗文化を開基隠元に弟子入りした府内の商人が、中期には九州禅を牽引した古月禅師を招いたのも豊後秋岡村（大分市）の商人という、大分の歴史特性と言えるような商人の活躍についても説明を行った。

会期中の10月13日（日）には、当館講座室において、記念講演会「中世大分の禅宗とその造形—豊後大友氏の禅宗受容—」を元別府大学文学部教授の渡辺文雄先生を講師にお招きして開催した。

会期：9月27日（金）～11月4日（月）

会場：第2展示室・テーマ展示室

開館日数：35日 入館者数：4,772人

出品点数：67点

記念講演会聴講者数：72人



「展示会場入口のウェルカムボード」



「第一章 豊後府内に開花した禅文化」



「第二章 戦国大名大友氏と茶の湯」



「展示会場入り口の様子」



「大友宗麟旧蔵の大名物・上杉瓢箪茶入」

＝出品目録①＝

第一章 豊後府内に開花した禅文化						
図版番号	名称	数量	年代	寸法【縦×横 (cm)】	所蔵者 (制作者)	備考
1	常楽寺文書「大友松野家系図」	1	江戸時代後期	33.1×5546.4	大分市 常楽寺	大分市指定有形文化財
2	「泊寺院主代明秀損物等注文」 『志賀文書』六 (写真/パネル)	1	鎌倉時代	—	東京大学史料編纂所影写本	
3	中峰明本墨蹟 「大友直庵宛尺牘」部分 (写真/パネル)	1	鎌倉時代	55.0×80.0	静嘉堂文庫美術館	
4	中峰明本像 (写真/パネル)	1	鎌倉時代	121.9×54.4	丹波市 高源寺	
5	木造釈迦如来坐像	1	鎌倉時代	像高139.5×胸厚43.4×台座高75.2 同最大幅149.5×同奥行114.5	大分市 長興寺	大分県指定有形文化財
	『禅余集』	1	江戸時代	26.3×19.0	大分市 萬壽寺	
6	「蔣山略記」 (写真/パネル)	1	江戸時代	26.3×19.0	大分市 萬壽寺	『禅余集』として合本
7	「蔣山古伽藍扁額記并序」	1	江戸時代	26.3×19.0	大分市 萬壽寺	『禅余集』として合本
8	「重興興寺聖萬壽禪寺」 (写真/パネル)	1	江戸時代	26.3×19.0	大分市 萬壽寺	『禅余集』として合本
9	絹本着色雪村友梅像	1	鎌倉時代	203.5×70.5	別府市教育委員会	別府市指定有形文化財
10	雪村友梅墨蹟	1	鎌倉時代	139.3×82.0	大分市 萬壽寺	
11	万寿寺跡出土瓦	1	鎌倉時代	軒平瓦：幅26.8×高さ5.4×奥行34.2	大分市教育委員会	軒瓦・平瓦・丸瓦一式
12	万寿寺跡出土瀬戸焼水注	1	戦国時代	口径5.9×高さ13.4×底径8.4	大分市教育委員会	
13	万寿寺伽藍配置模式図	1	現代	—	大友館研究会	
14	戦国時代後期の万寿寺のイメージ図	1	現代	—	秦 希明/佐藤 功 考証	
15	万寿寺CG復元	1	現代	—	大分市教育委員会	
16	府内古図	1	江戸時代	137.9×139.9	大分市歴史資料館	
第二章 戦国大名大友氏と茶の湯						
17	大友宗麟像【模写】	1	安土桃山時代	103.0×43.5	大分市歴史資料館 原本：大徳寺瑞峯院	
18	『大友興廃記』巻十八	1	江戸時代	26.6×18.8	臼杵市教育委員会	
19	『大友興廃記』巻十三	1	江戸時代	26.5×18.7	臼杵市教育委員会	
20	『大友家文書録』二 「久我宗久晴通永禄二年書状」 (写真/パネル)	1	戦国時代	—	東京大学史料編纂所影写本	
21	杜子美図 伝牧谿画	1	鎌倉時代	173×36.8	福岡市美術館	松永コレクション
22	千利休像 住吉廣行筆	1	安土桃山時代	166.1×29.1	中津市自性寺大雅堂	
23	上杉瓢箪茶入	1	室町時代	口径2.7×高さ6.5×胴径6.0	野村美術館	
24	古代鉢	1	江戸時代	22.0×848.0	大分市歴史資料館	
25	華南三彩壺	1	戦国時代	口径12.3×高さ27.3× 胴径24.0×底径14.0	華道家元池坊総務所	
26	華南三彩貼花文五耳壺	1	戦国時代	口径12.8×高さ31.4× 胴径28.0×底径16.4	大分市 勝光寺	大分市指定有形文化財 大分市歴史資料館寄託
27	茶釜	1	戦国時代	口径18.2×高さ12.1× 最大径35.0×底径16.8	大分市教育委員会	中世大友府内町跡出土品
28	茶臼	1	戦国時代	口径18.0×高さ23.7× 最大径35.8×底径26.6	大分市教育委員会	中世大友府内町跡出土品
29	中国産褐釉陶器壺	1	戦国時代	口径11.9×高さ40.5× 底径14.7	大分市教育委員会	中世大友府内町跡出土品
30	備前焼水指	1	戦国時代	口径(長辺)約27.6 ×高さ15.2× 底径(長辺)20.2	大分市教育委員会	中世大友府内町跡出土品
31	彫三島茶碗	1	戦国時代	口径13.3×高さ6.5 ×高台径4.6	大分市教育委員会	中世大友府内町跡出土品
32	唐津焼片口茶碗	1	安土桃山時代	口径12.3×高さ7.0 ×底径5.5	大分市早吸日女神社社家 小野家	
33	唐津焼井戸茶碗	1	安土桃山時代	口径13.4×高さ8.4 ×底径6.0	大分市早吸日女神社社家 小野家	
34	赤絵菓子器	1	安土桃山時代	径17.9×高さ7.4 ×底径7.6	大分市早吸日女神社社家 小野家	
35	黒楽茶碗	1	江戸時代	口径11.0×高さ7.9 ×底径5.2	大分市早吸日女神社社家 小野家	

＝出品目録②＝

図版 番号	名称	数量	年代	寸法【縦×横（cm）】	所蔵者（制作者）	備考
36	赤楽茶碗	1	江戸時代	口径11.5×高さ8.5 ×底径5.3	早吸日女神社社家 小野家	
37	茶杓 伝古田織部作	1	江戸時代	18.0×1.0 ×高さ2.2	早吸日女神社社家 小野家	
38	番付「形物香合相撲」	1	近代	25.8×19.0	天理大学附属天理参考館	上質の和紙に印刷
39	交趾大亀香合	1	戦国時代	口径14.8×高さ51.5× 最大径44.0×底径18.0	野村美術館	
トピック 長崎の豊後町						
40	肥州長崎図 大和屋板 享和元辛酉歳 (写真パネル)	1	江戸時代	35.0×46.0	長崎歴史文化博物館	
41	寛文長崎屏風（写真パネル）	1	江戸時代	129.1×315.0	長崎歴史文化博物館	
42	『桜町遺跡』地下室発掘調査風景の写真	1	江戸時代	—	長崎県埋蔵文化財センター	
43	中国産褐釉陶器壺（写真パネル）	1	江戸時代	口径14.8×高さ51.5× 最大径44.0×底径18.0	長崎県埋蔵文化財センター	
44	中国産褐釉陶器壺（写真パネル）	1	江戸時代	口径16.2×高さ53.0× 最大径45.0×底径17.4	長崎県埋蔵文化財センター	
45	朝鮮産褐釉陶器壺（写真パネル）	1	江戸時代	口径18.0×高さ23.7× 最大径35.8×底径26.6	長崎県埋蔵文化財センター	
46	軒丸瓦（写真パネル）	1	江戸時代	瓦当径14.6、14.5	長崎県埋蔵文化財センター	
第三章 新風を吹き込んだ江戸の黄檗禅						
47	清水流規矩元法分間絵図	1	江戸時代	123.5×123	大分県立先哲史料館	
48	杵築府内間山水図巻	1	江戸時代	30.5×459.3	大分市歴史資料館	
49-1	『雉城雑誌』六	1	江戸時代	23.7×16.6	大分県立先哲史料館	
49-2	『雉城雑誌』六（写真パネル）	1	江戸時代	23.7×16.6	大分県立先哲史料館	
50-1	府内藩記録 補遺 文政10年	1	江戸時代	25.5×21.0	大分市 松栄神社	大分市歴史資料館寄託
50-2	府内藩記録 補遺 文政10年	1	江戸時代	25.5×21.0	大分市 松栄神社	大分市歴史資料館寄託
51	関帝倚像（写真パネル）	1	江戸時代	像高165.0	長崎市 興福寺	
52	開基像	1	江戸時代	145.6×40.2	大分市 長福寺	
	紙本着色隠元・木庵・即非三幅対象	1	江戸時代		大分市 長福寺	大分県指定有形文化財
53	隠元像	1	江戸時代	186×57.9	大分市 長福寺	大分県指定有形文化財
54	木庵像	1	江戸時代	186×57.8	大分市 長福寺	大分県指定有形文化財
55	即非像	1	江戸時代	187×57.9	大分市 長福寺	大分県指定有形文化財
56	観音像 書：隠元・画：即非	1	江戸時代	190.5×45.3	【所有者】西光寺【保管者】万松寺	
57	木庵墨蹟	1	江戸時代	123×30.8	【所有者】西光寺【保管者】万松寺	
第四章 民衆へと広がる禅文化						
58	白隠慧鶴画像	1	江戸時代	122.2×42.1	中津市 自性寺大雅堂	
59	白隠筆 達磨図【複製】	1	江戸時代	192.0×151.5	大分市 萬壽寺	
60	白隠筆 寿字円頓章	1	江戸時代	132.0×198.6	大分市 萬壽寺	
61	古月禅材像	1	江戸時代	87.0×32.1	久留米市 福聚寺	
62-1	『四会録』全	1	江戸時代	27.0×19.5	久留米市 福聚寺	
62-2	『四会録』全（写真パネル）	1	江戸時代	27.0×19.6	久留米市 福聚寺	
63	古月大和尚傳記并碑銘 完	1	江戸時代	25.3×19.0	久留米市 福聚寺	
64	古月材禅墨蹟	1	江戸時代	21.8×39.8	国東市 安国寺	
65	古月材禅墨蹟	1	江戸時代	128.0×52.0	中津市 自性寺大雅堂	
66	円相図 仙厓義梵筆	1	江戸時代	125.0×29.2	福岡市美術館	三宅コレクション
67	布袋図 春叢筆	1	江戸時代	81.0×28.6	大分市美術館	



「トピック長崎の豊後町パネル展示の様子」



「第三章 新風を吹き込んだ江戸の黄檗禅」



「トピック長崎の豊後町パネル展示の様子」



「第四章 民衆へと広がる禅文化」



「第三章 新風を吹き込んだ江戸の黄檗禅」



「第四章 民衆へと広がる禅文化」



「第三章 新風を吹き込んだ江戸の黄檗禅」



チラシ左：表、右：裏

2. 令和元年度大分市歴史資料館特別展関連報告

本報告は、令和元年度の特別展「大分の禅」において展示解説を行った大分市の歴史の中で、特別展開会後に新たな関連情報について確認したものである。

具体的には、江戸時代の名僧・古月禅師を豊後秋岡村（大分市）に招いた矢田宗用の実像に迫る地元・大分の史料と、長興寺木造釈迦如来坐像（大分県指定有形文化財）の新知見について紹介し、本特別展の解説を補足する。

なお、長興寺釈迦如来坐像の調査報告については、福岡市博物館の末吉武史氏が長興寺住職の津守清滴氏の許可を得て行った調査の報告で、末吉・津守両氏の承諾を得て、ここに公開するものである。

（1）古月禅師を豊後秋岡村に招いた大名貸

塩地潤一（大分市歴史資料館）

はじめに

名僧・古月禅師が大分市の歴史に名を連ねていた事実を、展覧会で紹介したのは令和元年度のことである。具体的には、大分市歴史資料館第38回特別展「大分の禅—中国の禅文化を追い求めた歴史—」の中で、江戸時代の半ばに「西の古月、東の白隠」と並び称された名僧の一人・九州禅を牽引した古月禅師と、禅師を豊後秋岡村（大分市）に招いた矢田宗用という人物について展示解説を行った^{（註1）}。

その際に引用した史料は古月禅師の語録『四会録』で、久留米福聚寺（福岡県久留米市）のご高配を賜り、お借り受けできた初公開（初出品）の原本史料である。『四会録』には、大分市の歴史に関わる2つの記述が認められ、①元禄15年（1702）の秋に古月禅師が豊後秋岡村の古月庵に住んでいたこと、②この古月庵は秋岡村の矢田氏が同地の田園に庵（古月庵）を建てたものであること、などが記されている。

昨年度の特別展では、豊後秋岡村の矢田宗用という人物を地元大分の史料から検証

し、紹介することが叶わなかった。このため、開会後も府内藩の正式記録である『府内藩記録』の調査を継続したところ、注目される3つの記述を発見することができた。

本稿はその報告であり、古月禅師を豊後秋岡村に招いた矢田宗用とは、いかなる人物であったのかを私見を交え、その実像に迫るものである。

1. 矢田宗用に関わる『府内藩記録』の記述

管見の限り、矢田宗用が登場する記録は3つで、元禄14年（1701）8月8日付けのもの【史料1】と、同16年（1703）年12月25日付け【史料2】と28日付けのもの【史料3】となる。これらの史料は、古月禅師が豊後秋岡村に建てられた古月庵に移り住んだとみられる元禄15年前後のものであり、元禄14年のもの【史料1】は宗用の孫と府内藩士の娘との婚姻について、同16年のもの【史料2・3】は2つとも府内藩が宗用から借用した銀の証文についての

記述である。

ここでは各史料の翻刻文を示し、府内藩の正式記録からみた矢田宗用についてまとめる。

【史料 1】『府内藩記録』（日記御用留）甲 11-2

元禄十四年八月八日

一 八日、増田八郎兵衛竹内五郎右衛門を以、公領秋岡村庄や権左衛門親矢野宗用、八郎兵衛娘を囃孫権左衛門世倅十次郎へ取合、婚儀仕度由、十次郎儀者宗用方へ引取置申候、行々宗用跡を譲申由、十次郎年拾六、八郎兵衛娘年十五罷成候由申越

本記録は、1701 年 8 月 8 日に増田八郎兵衛が娘の婚姻を竹内五郎右衛門に報告したもので、矢田宗用と姻戚関係を結んだことが分かる史料である。これによれば、①矢田宗用が自分の 16 歳の孫を増田八郎兵衛の 15 歳の娘と引き合わせたこと、②宗用が孫にあたる十次郎を引き取り、跡を継がせる予定であること、③秋岡村がこの当時、公領（幕府領）であったこと、④娘の婚姻を藩に報告した増田八郎兵衛は府内藩士とみられること、などが読み取れる。

なお、記録に記載された「矢野宗用」とは「矢田宗用」の誤記で、後述する【史料 3】の記述からも裏付けられるものである。

【史料 2】『府内藩記録』（御用覚書）甲 12 元禄十六年十二月二五日

一 同日。秋岡宗用方御借用銀八貫目、午閏八月方十二月迄之利銀三百八拾四匁六分壹厘五毛、年里壹歩之積五ヶ月分八拾貫目、未年中一步之利壹貫目合壹貫三百八拾四匁六分三厘五毛増田[]証文二裏書調御銀奉行申渡。

本記録は、1703 年 12 月 25 日に矢田宗用

から借りた銀八貫目の利銀の額について、増田何某かが証文を改め御銀奉行に通達したもので、宗用が八貫目もの大金を府内藩に貸していたことが分かる史料である。矢田宗用が秋岡村に住んでいたことも読み取れる。

また、宗用からの借用銀の証文調べに携わる増田という人物は、次に紹介する【史料 3】から宗用と姻戚関係にある増田八郎兵衛とみられる。

【史料 3】『府内藩記録』（御用覚書）甲 12 元禄十六年十二月二八日

一 二八日。矢田宗用方御借銀拾貫目証文、去年方今年十二月迄利銀相渡、証文書替増田八郎兵衛へ相渡之。

本記録は、宗用から借りた銀 10 貫目の内、1702 年から 1703 年 12 月までの利銀を銀主に払ったことに伴い、借用銀の金額を書き換えた証文を 1703 年 12 月 28 日に増田八郎兵衛へ渡したことが分かる史料である。

これによれば、①宗用からの借用銀が利銀により 10 貫目にまで増大していたこと、②また、借用銀の証文を府内藩士の増田八郎兵衛に渡したこと、などが読み取れる。

以上の 3 つの記録から明らかになった主な内容は次のとおりである。

1) 幕府領の秋岡村に住む矢田宗用は府内藩に大金を貸し付けるほどの豪商で、府内藩の領民ではないことからすれば宗用は、まさに大名貸と呼ぶに相応しい存在であった。

2) 借用銀の利銀を定めた証文は、宗用から借りた銀八貫目の証文の裏に増田八郎兵衛が書き加えたもので、それを御銀奉行に通達したのも八郎兵衛である。また、利銀の払い戻しにより宗用からの借用銀が減額

した際の証文も、増田八郎兵衛に手渡された。

このように、『府内藩記録』にある矢田宗用にまつわる記録はすべて、古月禅師の語録『四会録』の禅師が豊後秋岡村に移り住んだ元禄15年前後で、古月禅師の語録と府内藩の正式記録が整合する可能性がある。

よって次節では、『四会録』に記された矢田宗用の33回忌の記録を基に、『府内藩記録』との整合性について検証する。

2. 『四会録』に記された矢田宗用

『四会録』に矢田宗用が登場するのは、宗用の33回忌の法要を古月禅師が豊後秋岡村で行った際の記録で、宗用が元禄15年(1702)11月18日に逝去したことが分かる。その詳細を、禅文化研究所が所蔵する『四会録』写本の翻刻^(註2)を参考に紹介する。

【史料4】『四会録』久留米福聚寺所蔵

追薦古月宗用^(註3) 庵主三十三回忌〔豊後秋岡矢田氏、田園建一庵、号古月庵〕

元禄十五壬午秋、寫古月庵過冬制。施主宗用庵主芳志至懇也。引接以見性成佛之旨。丁十一月十八日俄爾逝矣。僉曰、因縁會遇末後幸聞見性之説終焉。今茲正遇三十三回之遠諱、孝子宗入居士遠贈淨財供一會徒衆。看讀金剛般若經、熏爐盃茗之次、裁一偈以寄呈宗用庵主牌前。古時伴月住茅庵、俚指歳華三十三、宗旨用心隨化去、香燈永鎮照禪龕。

本史料からは、先述のとおり①豊後秋岡村の宗用が、田園を提供し古月庵を建てたこと、②古月が元禄15年(1702)の秋に秋岡村へ移り住んだことをはじめ、③古月を招いてすぐの同年11月18日に宗用が逝去

したこと、④宗用の33回忌の法要が享和19年(1734)に執り行われたこと、などが読み取れる。

ここで注目したいのが、宗用の没年月日である。『府内藩記録』の【史料1】にある増田八郎兵衛との姻戚関係を結んでから僅か1年余りで、宗用は逝去したことになる。

『府内藩記録』の記述と相俟って、宗用が孫を八郎兵衛の娘と引き合わせ、自分の孫に跡目を継がせようとした理由が垣間見えそうである。死期が迫るのを宗用は感じていたのではなかろうか。

その一方で、八郎兵衛も豪商・矢田宗用と姻戚関係を結ぶ何らかの利点があったのだろうが、これについてはまだ判然としない。そのため本題とは少し逸れるが、宗用と姻戚関係を結んだ増田八郎兵衛について、『府内藩記録』の別の件から若干の整理を次に行う。

3. 『府内藩記録』にみる増田八郎兵衛

増田八郎兵衛については府内藩の要職を務めた人物のようで、元禄16年(1703)10月6日の記述【史料5】には、毎年この時期に行われる津留め、つまり城下の三口御門(堀川口、笠和口、塩九升口)からの米の搬入を差し止める実行役の一人として名を連ねる。年貢の上納に支障をきたさないよう新米の勝手売りを防ぐための重要な任務である^(註4)。また、その4年後の宝永4年(1707)7月4日には御船奉行としても登場する^(註5)。

【史料5】『府内藩記録』(御用覺書) 甲12 元禄十六年十月六日

一 六日。如例年三口御門津留来ル八日
に被仰付之旨、伴是兵衛、増田八郎兵

衛、伊藤五兵衛申渡之。

宗用と姻戚関係を結ぶ元禄 14 年（1701）頃の八郎兵衛の職責を究明する上で、鍵を握る人物が、この津留役三人の内の一人、伴是兵衛とみられる。それは次の史料から、是兵衛も八郎兵衛と同じように借用銀の証文調べを行っていることが分かり、参考になる。

【史料 6】『府内藩記録』（御用覺書）甲 12
元禄十六年十二月一日

一 朔日。竹内平士に御借用銀十三貫目之内、六貫目右十三貫目、未年中歩之利壹貫三百目、合七貫三百目御返済、未年七貫御借用証文調、伴是兵衛、佐藤与一兵衛二相渡。

本史料も借用銀の証文に係る記録で、銀主の竹内平士に返却を一部したことにより生じた、借用銀の変更額を記した証文を検査し、その証文を佐藤与一兵衛に渡す役目を伴是兵衛が担っていたものと読み取れる。

これにより、城下の津留役を任された二人が同じように、藩の多額の借用銀を取り扱う立場にあったことが浮き彫りになったと言えよう。宗用と姻戚関係を結んだ増田八郎兵衛は、遅くともその 2 年後には府内藩の借用銀を管理する藩の重責を担うような人物であった。藩の金策は本来、藩の役人が京坂や公領の大名貸に直接あたっていたことから、八郎兵衛が宗用と姻戚関係を持つ利点が、ここにありそうである。

4. 矢田宗用が生きた時代と府内城下近郊の社会情勢【第 1 図】

ここで話を本題に戻すことにしよう。本稿の目的は、名僧・古月禅師を豊後秋岡村に招くことができた矢田宗用の実像に迫る

ことで、令和元年度の特別展開始後も継続した『府内藩記録』の調査によって、宗用が府内藩の大名貸であったことを突き止めた。

宗用はその財力を活かし、古月の語録『四会録』にあるように、古月庵を田園に建て古月禅師を豊後秋岡村に招くことを実現したのである。

そこで気になるのが、宗用が豪商になれた理由である。今回の『府内藩記録』の調査ではその答えを見つけることができなかったため、宗用が生きた時代が大分の歴史の中で極めて特徴的な社会情勢であったことに最後触れ、今後の予察としたい。

宗用最晩年の元禄 15 年（1702）年頃の豊後秋岡村は公領（幕府領）であった。幕府領は年貢も低く、流通や金融の統制も弱かったので、豪商や豪農といわれる人々が多かった^{（註 6）}。宗用はまさにその一人と言える。

また、この頃大分郡の特産品は七島筵で、その生産量は杵築藩に次いで府内藩が全国二位、豊後の最上級品が府内の筵であった^{（註 7）}。七島筵や穀類を扱う府内の商人は計屋と呼ばれ、延宝頃（1673～81）4 軒だった計屋^{（註 8）}の数が、宝暦 3 年（1753）には 35 軒にまで増えていったとみられる^{（註 9）}。その多くは城下の笠和口周辺に店を構え、ここに穀物・七島筵の間屋街が形成された。笠和町に形成された理由については、後背地との関係から物資の集散が最も盛んな笠和口を控えていたからとする、穀物や七島筵の主な生産地が城下の南西部一帯にあったことを示唆する重要な所見がすでに提示されている^{（註 10）}。

このような状況の中、在町（農村内の町

域)を禁じている府内藩では、府内城下は領内唯一の商業地であり、城下外での商取引が禁止されていた^(註 11)。しかしながら、元禄4年(1691)には七島筵を城下に持ち込まず、「御門外の脇々」で売買がなされており、その数は年間1万6、7千束、金額に換算すれば銀およそ百貫目にもなったようである^(註 12)。

さらに、享保7年(1722)には、城下に送り込まれるはずの荷物を「御領内の近郷中」に位置する、二俣、深河内、畑中の3村(大分市南大分地区)において近年、売買する者がいるために渡世が成り立たないと、城下の計屋が近郷中での買留めの禁止を願い出ている^(註 13)。計屋が禁止を求めたのは、穀類や七島筵などの買留めであったことは言うまでもなく、府内城下の南西部に門外店が開かれ、計屋の営業に打撃を与えるほどに広範な、商取引が行われていたことになる。「御領内の近郷中」は大道の切り通し(堀切峠)を超えて城下の笠和口につながる街道沿いの交通の要衝であった。このような構図は、すでに宗用が生きた時代にも存在していたものとみられる。

宗用が居た秋岡村は、その後に「御領内の近郷中」と呼ばれた府内城下の南西部一帯を見渡せる名峰・霊山の麓に位置する公領で、近接する高城村(大分市)では、遅くとも延享2年(1745)には七島藺の植付が行われていた^(註 14)。そして、近郷中の周辺にあたる下宗方村の枝村・八幡田村(大分市)には七島筵の買付けが行われた臼杵藩の会所があった^(註 15)ことなどから分かるように、府内城下の南西部一帯は七島筵の主要な生産地であった。

おわりに

豊後秋岡村の矢田宗用は、府内藩に大名貸しを行うほどの豪商であった。その財力を活かして田園に古月庵を建て、名僧・古月禅師を豊後秋岡村に招いたものとみられる。

また、宗用は死期が迫るなか、自分の孫を引き合わせ、府内藩の要職に就くほどの増田八郎兵衛と姻戚関係を結んだ。宗用死後の借用銀の証文の取り扱いをみれば、増田八郎兵衛と姻戚関係を持つことの意味が宗用に、そして府内藩士として藩の金策を考える上で八郎兵衛自身にもあったのかもしれない。

今回、宗用がどのようにして豪商になったのかを『府内藩記録』から読み解くことはできなかったが、宗用が活躍した時代の府内城下とその周辺の社会情勢は、当該期に生み出された七島筵という豊後の新しい特産品により、これまでにないほど活況を呈していたものとみて大過なからう。

事実、七島筵の主要生産地の一角で、城下へ運び込むはずの七島筵などを買留めした人物や、先の研究^(註 16)を踏まえれば笠和口とみられる「御門外の脇々」で売買した人物が存在した訳であり、当時主要生産地と府内城下につながる街道を眼下にした宗用が、このような七島筵の売買に関与していた可能性は十分にあると言えよう。大所高所からのご叱正を願うものである。

本稿を作成するにあたり、串間聖剛、高妻朗久(大分市教育委員会文化財課)の両氏に『府内藩記録』の翻刻作業において助言をいただいた。芳名を記して感謝申し上げます。

脚註

- 註 1 大分市歴史資料館 2019『令和元年度特別展
(第 38 回) 大分の禅ー中国の禅文化を追い求めた歴史
ー』
- 註 2 能仁晃道 2007『清骨の人 古月禅材』(財)
禅文化研究所
- 註 3 この古月宗用という号は賢巖禅悦が与えた
もので、姓は矢田、名は範政とある。註 2 と同じ。
- 註 4 大分市史編纂審議会 1955『大分市史』下 藩
政時代(松平前期) 第 29 章 年貢米の徴収 706
～708 頁
- 註 5 註 4 と同じ。第 15 章 京泊新湊の築港 588
頁
- 註 6 大分市史編纂委員会 1987『大分市史』下巻

諸領入り交じりの地(近世) 第一章 432 頁

- 註 7 大蔵永常 1859『広益国産考』三之巻
- 註 8 註 4 と同じ。藩政時代(松平前期) 第 39 章
府内の商工業 801 頁
- 註 9 大分県 1985『大分県史 近世篇Ⅱ』府内藩
第二章 69 頁
- 註 10 註 9 と同じ。
- 註 11 註 9 と同じ。69～70 頁
- 註 12 註 8 と同じ。803 頁
- 註 13 註 8 と同じ。818～821 頁
- 註 14 株式会社 平凡社 1995『大分県の地名』
高城村の項 599 頁
- 註 15 註 14 と同じ。下宗方村の項。603 頁
- 註 16 註 9 と同じ。69 頁



第1図 府内城下と豊後秋岡村の位置図

(2) 長興寺釈迦如来坐像 調査報告

末吉 武史 (福岡市博物館)

はじめに

本報告書は、大分市大字松岡五七四三臨済宗長興寺の本尊釈迦如来坐像の調査報告書です。

調査は大分市歴史資料館で開催した特別展「大分の禅」(令和元年9月27～11月4日)に会期終了後の令和元年11月4日(月)に実施し、植木和美(大分市歴史資料館)、河野史郎(大分市歴史資料館)、曾我俊裕(中津市歴史資料館)、工藤舞子(中津市歴史資料館)、三谷紘平(中津市歴史資料館)、高宮なつ美(大分県文化課)、以上各氏のご協力を賜りました。また写真撮影は末吉がおこないました。以上、記して感謝申し上げます。

令和2年2月26日

木造釈迦如来坐像

【法量】(単位cm)

像高	141.5	胸奥(左)	41.2
髪際高	120.0	胸奥(右)	41.5
頭頂～顎	49.5	腹奥	46.7
面長	30.1	膝奥	77.8
面幅	29.9	裳先奥	86.9
耳張	37.2	膝高(左)	22.0
面奥	37.7	膝高(右)	19.8
肘張	93.8	耳長(左)	25.4
膝張	119.8	耳長(右)	25.1

【形状】

肉髻をあらわし、螺髪(旋毛形)を彫出する。螺髪は髪際で一九粒、地髪部五段、肉髻部六段を数える。肉髻珠(亡失)、白毫(後補)をあらわす。髪際がたわむ。半眼、閉口。鼻孔を穿つ。耳朶環状貫通。耳孔を穿たない。顎の括り、三道相、胸、腹の括り各一条を刻む。

衲衣は両肩を覆い(襟首部を一段折り返す)、右腋を潜って腹前で上部を折り返し、左肩から左腕に懸かる。覆肩衣は右肩から右腕に懸かり、腹部で衲衣にたくし込み、弛みをつくる。左足裏を衣(裙か)で覆う。顔を正面に向け左脚を外に結跏趺坐する。左手は膝上に置いて仰掌し、第三・四指を軽く曲げる。右手は屈臂して前掌し、第三・四指

を軽く曲げる。第一・二指の間に曼網相をあらわす。

【品質・構造】

木造(ヒノキ材)、寄木造。玉眼、漆箔・彩色仕上げ。

頭部は両耳後方で前後に二材を寄せ、間に幅約3cmのマチ材(耳輪の一部を含む)を挟む。内割り(前面材は正中線で左右に割り矧ぐか)のうへ玉眼(水晶製)を嵌入し、三道下で四角形の首柄をつくる。玉眼の瞳は黒に赤の縁取り、目頭と目尻を青く暈す。肉髻珠(亡失、朱の伏彩色を施す)、白毫(水晶製)。

体幹部は前面と背面の二材及び左右の肩上面材(現状では複数の後補材を組み合わせた)を寄せる。前面材(幅47.3cm)は三道下を四角く切り欠いて首柄受けをつくり、下部中央には像心束(現状長7.5cm、幅11.5cm)を彫出する。両肩以下の体側材は各上下二段に寄せ、左体側材の下部はさらに前後二材矧ぎとする。膝前は上下二段に寄せ、裳先部に別材を矧ぐ。その他、両手袖口に別材を矧ぎ、各手首先を挿込みとする。表面の仕上げは布張り錆漆下地に白下地を施し、漆箔仕上げとする。ただし、現状では後補の漆箔と当初の漆箔が入り混じる。

像内は全面に内割りを施し(体幹部材は左右に割り矧いで内割りするか)、内割り面は小丸刀で平滑に整える。各材の矧合せ部には布張りの痕跡が認められる(現状では鉄鎧を用いる)。

なお、体幹部材は前面・背面ともに左右二か所に突出部があり、当初は構造強化のために前後を束で結んでいた可能性が考えられる。



像内内割り部(上が正面)

【保存状態】

像内の観察によると多数の補材が認められ、近世に大規模な修理を受けたことがわかる。主な後補部は以下の通り。頭部左右マチ材の上部、後頭部材の頭頂部、玉眼押え木、首周辺の肩上面材、膝前材上面の一部。また、体幹部材と体側材の矧ぎ目にも多数の補材・埋木が認められるほか、膝奥像底部の左右に角材を渡して構造を補強している。

なお、体幹部背面材の内割り面に「一寸八ふなり」と墨書が認められる。



【制作年代】

鎌倉時代（十四世紀）

【備考】

- (1) 本像は大分市松岡にある臨済宗長興寺（山号松岡山）の仏殿の本尊である。長興寺は寺伝によれば嘉元二年（1304）に、戸次荘地頭の戸次重頼が、日向伊東氏出身で入元僧の要翁玄綱を迎えて開いたと伝えられる（『豊後国志』では延慶元年・1308とする）。長興寺旧在の鐘銘には文保二年（1318）十二月十八日に藤原（戸次）頼貞を檀那として鑄造した旨が記され、遅くともその頃には寺観が整っていたと考えられる。
- (2) 本像は像高 141.5 cm（四尺六寸七分）、髪際高で 120.0 cm（三尺九寸）を測る大型

の坐像である。頭部が大きく巨像に相応しい重厚な正面観をもつ像であり、面貌も眼差しが鋭く口元を強く結ぶなど、男性的な趣を示す。面貌がやや平板で着衣に重さが感じられるものの、体軀はほどよく均整がとれ、衣文も自然な質感を失っていない。総じて鎌倉時代後期の造形的特色が看取され、巨像を破綻なくまとめた出来栄から、畿内の仏師の手になると思われる。本像については長興寺の前身寺院のもので、作者は運慶とする近世の史料（『豊府聞書』）もあるが、衣皺が少ない面的な衣文構成や、角張った耳の形、像心束を造る構造、また髪際高と膝張がほぼ一致する規格主義的な用材などを踏まえると、むしろ鎌倉後期における院派仏師の作風が顕著に認められる。当該期の院派作例と比較すると、元徳二年（1330）に院吉が造った愛媛・東円坊の如来坐像と作風が近く、本像の制作時期も十四世紀の前半に置くことができ、長興寺の創建と矛盾しない。

【参考文献】

三谷紘平「中世豊後における禅宗の展開～大友惣領家・庶子家の禅宗受容と門派のかかわり～」『大分県地方史』217 平成 25 年

付記

大分市長興寺釈迦如来坐像の調査は、福岡市博物館の末吉武史氏が中心となり、長興寺の承諾を受け実施した。専門学芸員による仏像の熟覧・計測・写真撮影の機会に、当館職員も全面的に協力して調査を行った。

調査の結果、元徳 2 年（1330）院吉（院派）作の愛媛県・東円坊の如来坐像と作風が近いとする新しい所見を得た。

仏師在銘作品にみる限り 14 世紀の豊前・豊後の造仏活動は慶派仏師が中心と言われており、非常に興味深い調査結果となった。

今回、調査結果について、長興寺及び末吉氏の承諾を得て、ここに報告することになりました。文末に記して感謝申し上げます。

（河野 史郎）



愛媛県・東円坊 木造如来坐像

(横浜市歴史博物館『中世の世界に誘う 仏像 院派仏師の系譜と造像』1995年より複写)

撮影 井上久美子

「戸次荘松岡長興寺鐘銘」

『岡山県金石史続編』※坪井良平編『日本古鐘銘修正』所収

(第一区)

南閭浮提耳根得悟之妙処故
各以音声為仏事筑紫豊州仏
法繁昌之宝場鎮架洪鐘垂慈
濟困範円成心裏空濶脱自一
換遠顕大功人天故向竜象和
光蒲牢一吼星斗晦蔵郡峰参
響心境俱亡扣之大者其声徹
乾坤而竟有情之昏睡扣之小
者其応答衆峰分清韻難量東
迎素月西送夕陽昏寐未覺攪
之則寤宴安猶恣警之苐破塵
(第二区)

勞之大夢戈牟息物類之顛狂
妙楽妙覺覺空根塵消殞返聞
聞尽本性全彰共証円通三昧
永臻檀施吉祥回此功勲上祝
今上皇帝聖寿無疆次冀勢威
將軍垂拱而四海清平無為万
邦入貢王民豊康歲次能稔天
長地久矣

文保二年十二月十八日

※文保二年〓一三〇八

豊後国戸次庄長興禪寺住持比丘宏玄敬白

大檀那 藤原頼貞 大工大島助盛

◇ 『豊鐘善鳴録』

〔河野彦契編／寛延三年(一七五〇)〕※原文は漢文

豊後州海蔵寺要翁禪師は諱玄綱、日州太守伊東氏の子なり。幼にして爽拔質像人に過ぐ。州の仏日山に投じて祝髪稟戒す。既に洛に上り、遍に五嶽の諸老に見え、内外を綜渉し、禪教に精通す。尋いで元国に入り、化を諸刹に観る。竟に帰棹埋じ、博多に達す。暫く聖福に止まり、遂に平安に届く。興聖の靈虎生和尚を礼し、親しく印記を承く。豊後の崇祥に出世す。州守藤侯(大友氏)、新たに羽衣山海蔵寺を建て、師を聘じて、開山祖と為す。晩歳長興の廢址を興して退休す。某の年霜月二十四日を以て示寂す。法子菊莊恒師の像を描き、南禅義堂信公に就き、贊を求む。其の贊に曰く「亀毛の払は掌握に横じ、兎角の杖は繩牀に靠る、夢中の説法未だ了らず、量外の応機は方無く天宮を出る、海蔵に曇瑞を現し崇祥を呈す。雷は寒巖を動かし龍吟を枯木に発す、雲は陽谷に開き慧日を扶桑に桂す、涅槃後の相は虚空に彩を著し舍利は輝きを草木に流す、光を放つ祖翁の田地は今誰か主たる、三経秋登一荘に菊す」。

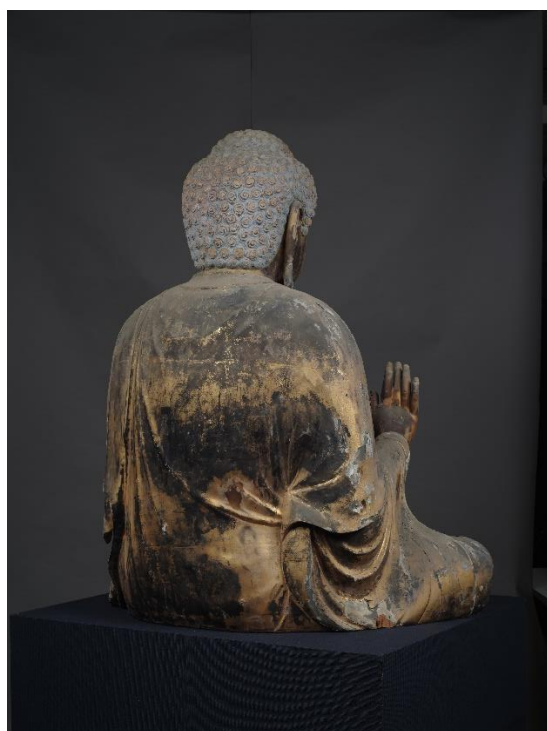
◇ 『豊後国志』

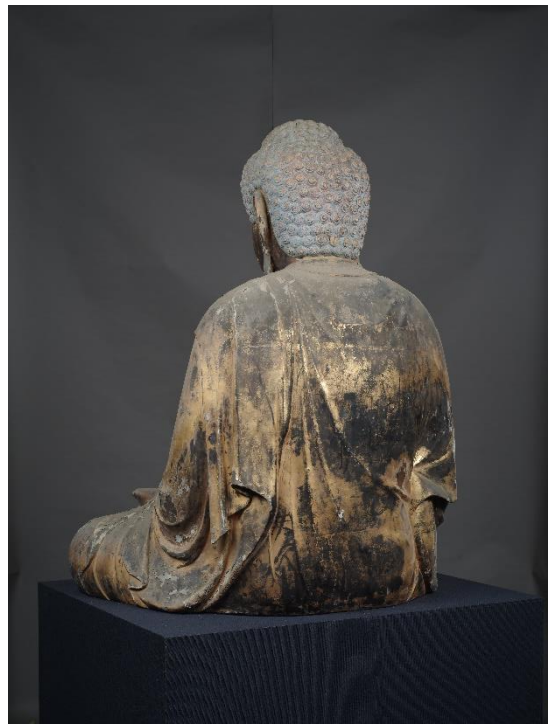
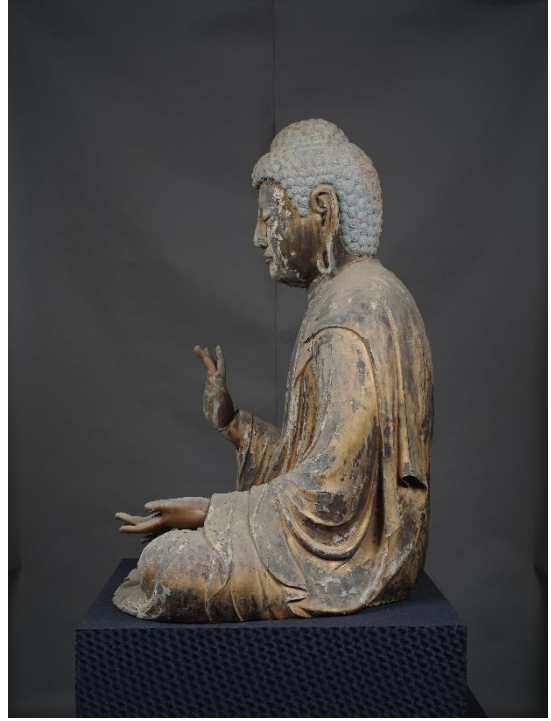
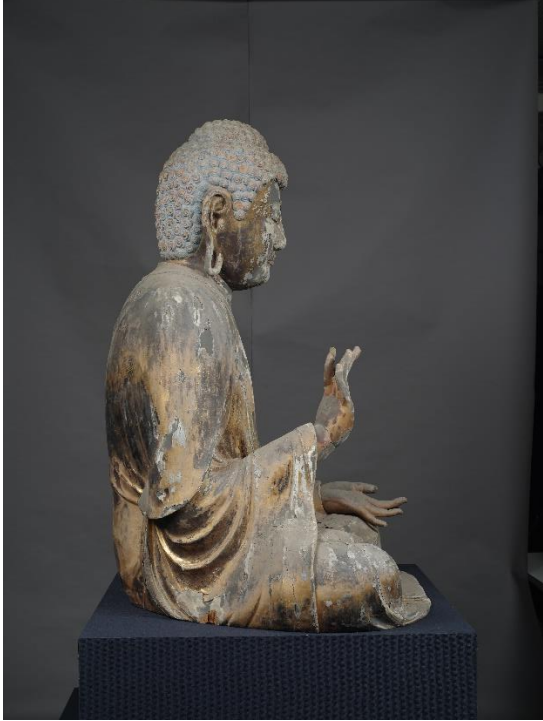
〔唐橋君山ほか編／享和四年(一八〇四)〕※原文は漢文

長興寺 戸次郷松岡村に在り。紀聞に曰わく、「要翁玄綱禪師は日州の華姓伊東氏の族なり。嘗て元国に雲遊し、諸宿に参叩す。既に東帰し、筑の聖福に寓す。延慶元年、大分戸次荘に来る。靈窟の廢址を見、將に興さんとして、材を伊東氏に請ふ。戸次重頼、其の費を資す。輪奐なる一望刹となれり。大友貞宗、水田十町を施す」と。善鳴録に曰わく、「秀山元中禪師、尋いで玄風を振う」と。文禄に朝鮮を征するの師、豊に到る。豊臣関白、適鐘声を聞きて曰わく、「奇なるかな鐘や。その声は清越にして、響きは宮商に協う。是れ何処の鐘ならん」と。これを檢すれば則ち長興寺の鐘なり。遂に之を取り、宇喜多秀家をして軍器に用いしむ。凱旋の日、廻ち軍功に賞賜す。因りて諸を備の岡山に齎し、以て酒折神祠に奉養すと云う。此の寺、寛文以来、鐘を鑄ること再三なれども、罅隙あり響かずして、皆廢す。宝曆壬午、復改鑄す。住持大頂曰わく、「願わくは古き鐘の銘文を得て、以て之を鐫らん」と。遂に請いて之を得たり。其の文末に曰わく。「文保二年十二月、豊後国戸次荘長興寺住持比丘宏玄敬白、大檀那藤原頼貞」と。其の譜を按ずるに曰わく。「戸次貞頼、頼重の子」と、是なり。

※延慶元年〓一三〇八

【図 版】





Ⅲ. その他の展示

常設展示「今月の源氏物語絵」

●当館所蔵の「源氏物語絵」を、季節に合わせて、月ごとに「巻 52・蜻蛉(7月)」・「巻 3・空蟬(8月)」・「巻 38・鈴虫(9月)」・「巻 21・少女(10月)」・「巻 39・夕霧(11月)」・「巻 41・幻(12月)」・「巻 6・末摘花(1月)」・「巻 43・紅梅(2月)」・「巻 5・若紫(3月)」を、「今月の一品」として展示した。

常設展示「縄文時代のコーナー」

●国指定史跡横尾貝塚から出土した姫島産黒曜石の石核や石鏃などの石器を追加展示した。

常設展示「古墳時代のコーナー」

●勾玉と臼玉の製作工程がわかるように、若宮八幡宮遺跡出土の石器を順番に並べて展示解説を行った。

常設展示「中世コーナー」

●9月の常設展示資料の貸出に伴い、中世コーナーの展示替を行った。南蛮文化に関連する資料の「オルテリウス 東インド諸島図」、「オルテリウス タルタリア図」、『イエズス会日本書簡集』（ドイツ語版）を展示した。『イエズス会日本書簡集』（ドイツ語版）については、平成 29 年度に購入したもので、今回が初公開となる資料である。

常設展示「学芸員の気まぐれ一品」

●「天神人形」

子どもの成長を願い、飾られた天神人形を端午の節句に併せて展示した。

●「伏見人形と発掘品の鼠」

市内の江戸時代の遺跡から発見された鼠の土人形を伏見人形と並べて展示した。

●「姫だるま」

縁起物としてつくられた竹田市の張り子のだるまを展示した。

常設展示・展示パネル替え

●インバウンド対応のため、常設展示に英語パネルを設置した。また、展示資料の解説用に音声ガイド用のタブレットを設置した。

Ⅳ. まちかど歴史展示館

●多くの市民に郷土の歴史や文化を紹介するために、資料館を出てパネルや資料を使い展示を行う「まちかど歴史展示館」を、昭和電工ドームで行い、2,565 人の利用があった。



「勾玉、臼玉の製作工程を解説した展示」



常設展示「中世コーナー」展示替え



常設展示「学芸員の気まぐれ一品」展示替え

資料調査

Ⅰ. 令和2年度特別展関係資料調査

令和2年度開催予定であった「大分の人形浄瑠璃」の各資料調査を以下のとおり実施した。

1. 轟神社

調査日 令和2年1月12日(日)

調査員 植木和美・樋口和紀・吉竹千穂

■令和2年度特別展「大分の人形浄瑠璃」の実施にあたり、「轟神社所存浄瑠璃人形」の資料調査を行った。

大分市木佐上地区の人形芝居は、阿波(徳島)の人形浄瑠璃の影響を受けているとされる。そのことを裏付けるように阿波の人形師初代天狗久の作である人形が残されている。

また、配役表や残されている道具等から「太閤記」や「仮名手本忠臣蔵」といった題材が演じられていたことや使用した人形が判明している。

特別展において、木佐上地区でどのような人形浄瑠璃が演じられていたのかを紹介する。



角目頭



検非違使頭

2. 徳島市徳島城博物館

調査日 令和2年1月29日(水)

調査員 植木和美・樋口和紀

■令和2年度特別展の実施にあたり、轟神社で上演されていた演目につながる「三番叟」・「太閤秀吉」・「熊谷直谷」・「相模」といった浄瑠璃人形や「三番叟」の人形頭、また「難波戦記」の床本2冊の資料調査をおこなった。

浄瑠璃人形や人形頭は、明治から昭和にかけて人形浄瑠璃に大きく貢献をした阿波(徳

島)の人形師初代天狗久の作品である。頭の大形化やガラスを用いた目など、阿波・淡路の舞台に合わせた人形を制作している。阿波・淡路の人形文化を現す作品となっている。

「難波戦記」の床本は、人形浄瑠璃の演目の一種であり、どのようなものが演じられていたかわかる資料となっている。「難波戦記」とは、大坂冬の陣・夏の陣を題材とした軍記となっている。

特別展においては、戦国時代末期に成立した人形浄瑠璃についての解説や、阿波・淡路における人形浄瑠璃を紹介する資料として展示予定である。



三番叟



太閤秀吉

3. 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

調査日 令和2年1月29日(水)

調査員 植木和美・樋口和紀

■令和2年度特別展の実施にあたり、轟神社で上演されていた人形浄瑠璃の演目につながる「傾城阿波の鳴門」に用いる十郎兵衛・お弓・お鶴の人形の資料調査、浄瑠璃人形の展示方法の調査や上演状況の調査を行った。

「傾城阿波の鳴門」は実在した藩の政策により無実のまま処刑をされた庄屋である坂東十郎兵衛の名前を用いた作品となっている。今回調査を行ったのは、「巡礼の段」という場面である。

初代天狗久の作品であるお弓とお鶴の人形および、3代目天狗久の弟子である天公正の作である十郎兵衛の人形が展示され、人形の操作を体験できるコーナーも設けられている。また来館者が楽しんでいただけるように

人形浄瑠璃の団体による上演も行われている。

これらの作品は阿波・淡路の人形浄瑠璃の特徴の解説や浄瑠璃の様子を紹介する資料として展示する予定である。また、人形の操作方法や上演の方法についての資料を展示の補足として使用する予定である。



お弓・お鶴・十郎兵衛人形

4. 南あわじ市淡路人形浄瑠璃資料館

調査日 令和2年1月30日(木)

調査員 植木和美・樋口和紀

■令和2年度特別展の実施にあたり、轟神社で上演されていた人形浄瑠璃の演目につながる「平知盛」の浄瑠璃人形の資料調査を行った。

題材となっている「平知盛」とは、平清盛の四男であり平家一門の武将である。演目は「義経千本桜」となっている。

製作者・製作年代については不明であるが、淡路における浄瑠璃人形の形態やどのような演目が行われていたのかを知ることができる資料であるとみられる。

特別展において、阿波・淡路の人形浄瑠璃の特徴を伝える展示に活用する予定である。



平知盛



小道具(錨)

5. 北原人形芝居

調査日 令和2年2月2日(日)

調査員 植木和美・吉竹千穂

■令和2年度特別展の実施にあたり、大分県内に残る人形浄瑠璃である「北原人形芝居」の調査を行った。

北原人形芝居は、大分県中津市北原の原田神社にて行われている伝統芸能である。大分県の無形民俗文化財に指定されている。

北原人形芝居の特徴としては、一般的に行われている人形を三人で扱う「三人づかい」とは異なり、一人で扱う「挟みづかい」が伝わっており、全国では北原人形芝居のみで演じられている技法である。

この北原人形芝居を紹介することで、人形浄瑠璃の特徴や変遷や大分県における人形浄瑠璃文化とその歴史を広く観覧者の方々に伝えることができるものと思われる。



挟みづかい

Ⅱ. 市内の文化財調査

令和元年度の祭礼調査及び所有者の調査依頼を受けて行った資料調査件数は、36 件である。その内訳は以下のとおりで、歴史資料調査が大半を占めている。

区分	民俗調査		資料調査			建造物調査
	祭礼	民具	歴史	戦争	考古	近代建築
件数	9	5	13	8	0	1

1. 文化財指定に向けた資料調査

長福寺（田室町）所蔵の「紙本著色徳生範公像」と少林寺（木上）の「板碑」の調査を行った。前者は、長福寺開基の肖像画で、赤い袈裟を身に着けた徳生の姿を正面から描いており、黄檗宗の禅僧であることを裏付けることができた。後者については、南北朝時代の紀年銘がある極めて重要な資料でありながら、現況を調べたところ、一部に塩類風化が認められた。

2. 竹内鍛冶工場

調査日 令和元年 8 月 17 日（土）
～8 月 31 日（土）
調査員 樋口和紀・河野史郎

■大分市常行・関門地区は、刀剣造りで知られる高田鍛冶の本拠とされ、その伝統を受け継いだ鍛冶屋が数多く活動していた。主力となる製品は鎌等の農具で、「高田の鎌鍛冶」して広く知られていたが、近代以降その数を減らし、近年は、竹内鍛冶工場を残すのみとなっていた。令和元年度、最後の高田刃物の工房となった常行の竹内鍛冶工場を調査する機会を得た。

調査は、竹内鍛冶工場の工房解体に伴う記録保存を目的とした調査で、竹内道義氏の協力のもと行われた。工房は、道義氏の父である政喜氏の代で閉鎖され、以後、一部見学希望者を中心とした公開されていたが、建物の

老朽化が進み、解体することとなった。

調査は、将来的な VR 復元を想定した建物の 3D 測量を行い、併せて寄贈頂いた鍛冶道具の調査も行った。同時に大分県木造建築研究会による調査も進められ詳細建物図面についても作成された。



竹内鍛冶工場 工房 3D 測量図(外観)

工房は、通常の鍛冶作業の空間と、仕上げ作業を行う空間の 2 つの空間に分かれており、前者が機械化された広い空間であるのに対し、後者は狭く機械化する以前の鍛冶作業の空間そのものが残されていた。

機械化した新工房が、エアコンプレサーと重油炉、グラインダーと連動したベルトハンマーが稼働する空間であるのに対し、仕上げ作業の旧工房は、昔ながらの箱轆と木炭を使用した鍛冶炉を配し、轆の脇の横座及び長い鋸を振る先手の空間が確保され、木炭置き場が併設されていた。竹内氏によると、製品の仕上げの工程では、轆の操作を伴う木炭炉の存在が必要不可欠であったという。

ここで、西洋と日本の鍛冶の違いについて述べると、西洋の鍛冶の作業が、立位を取るのに対し、日本の鍛冶は座位による作業となる。



鍛冶における座位と立位

これは炉の位置の違いや、日本の先手が振る長い鋸などの道具の違いによるものとされる。箱轆の構造から炉は地面につくられる

ことや刀剣等の折り返し鍛錬には長い鎚から繰り出される大きな力が必要であったことが背景にあると言われている。したがって、日本の鍛冶作業の座位から立位への変化は、近代以降の機械化を待たねばならなかった。

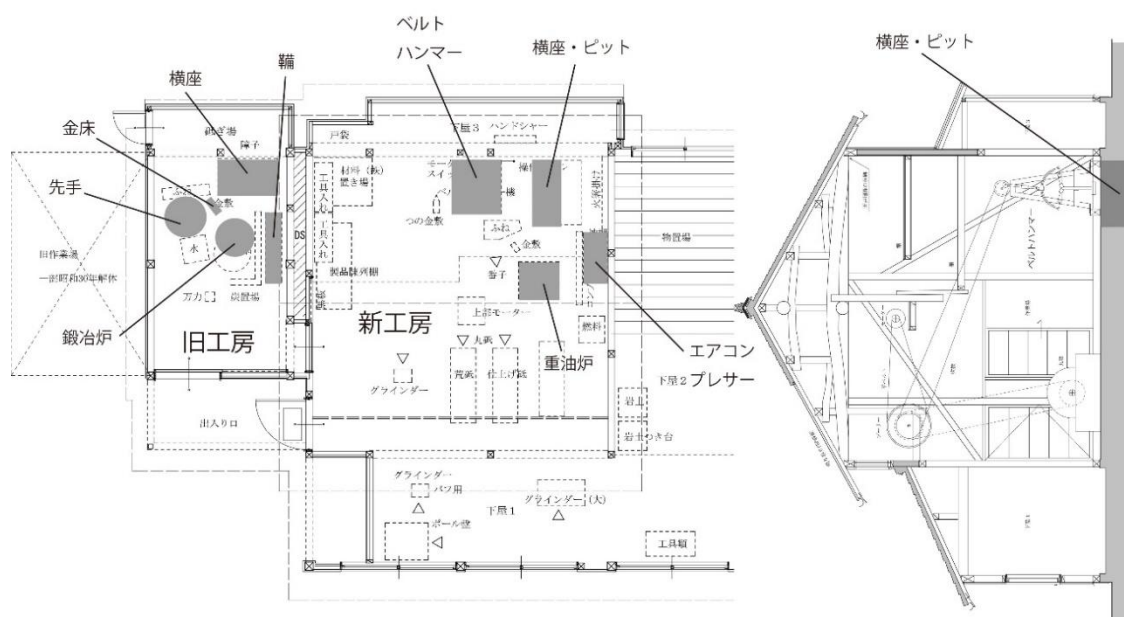
今回の竹内鍛冶工場の工房は、ベルトハンマーの叩き位置と、重油炉の燃焼位置を地面に近い低い位置とし、横座の位置にピットを掘ることで、立位の作業姿勢を作っている。

こうした変則的な立位による作業場の形成の背景には、従来の箱轆と地面に作られた鍛冶炉を配した空間の存在があると考えられる。おそらくは、ベルトハンマーの導入が、エアコンプレッサーと重油炉による鍛冶炉の導入に先んじて行われたことから、炉の位置が低い

地面のままとなり、ハンマーの叩き位置を低くし、横座のピットを掘る変則的な立位が成立したものと考えられる。

竹内氏の「製品の仕上げの工程では、轆の操作を伴う木炭炉存在が必要不可欠であった」との証言は、鍛冶作業における木炭炉の重要性を示しており、重油炉の採用が遅れた背景に木炭炉の存在があったと考えられた。

以上、今回の調査の結果、竹内鍛冶工場が、近代の機械化以降も、高田鍛冶以来の伝統的な鍛冶作業を行う工房をベースとした空間構造であったことが確認された。



竹内鍛冶工場 工房配置図
(大分県木造建築研究会作成 一部加筆)



3D 測量図 新工房



3D 測量図 旧工房

資料収集

資料収集委員会

1. 会議

開催日 令和2年2月7日（金）

場 所 歴史資料館会議室

議 案 審議事項

令和元年度購入予定資料の説明

2. 委員会名簿

氏名	役職	専門
段上 達雄	別府大学教授	民俗学
下村 智	別府大学教授	考古学
安田 晃子	（元）大分県立歴史博物館課長	文献史学
大津 祐司	大分県立先哲史料館長	文献史学
田中 修二	大分大学教授	美学美術史

(12) ノギス	大分市	個人	1点
(13) 山樵道具「削りよき」	大分市	個人	2点
(14) 民俗資料	大分市	個人	4点
(15) 戦争資料・その他	大分市	個人	9点
(16) 達磨図・書	大分市	個人	3点
(17) 記念メダル・切手ほか	大分市	個人	73点



高田鍛冶 ふいご



達磨図



戦時債券

寄贈資料

(1) 戦争資料 ほか	大分市	個人	58点
(2) 民具・戦争資料 ほか	大分市	個人	37点
(3) 古文書	大分市	個人	1点
(4) 電気裁縫機	大分市	個人	30点
(5) 軍隊手帳	大分市	個人	1点
(6) 戦争資料	大分市	個人	1点
(7) 蚊帳	大分市	個人	2点
(8) 鍛冶師道具 ほか	大分市	個人	286点
(9) キリシタン関係資料	大分市	個人	97点
(10) 戦争資料・その他	大分市	個人	71点
(11) 軍服・その他	大分市	個人	18点

資料購入

(1) 大友宗麟書状 1点

縦 12.6cm×横 43.5cm

筑前、豊前に影響力を持っていた大内氏が毛利氏により滅亡。その後、大内氏に代わり、毛利氏の勢力が北部九州に及ぶようになり、その支配を巡って大友氏は毛利氏が対峙するようになる。

本書状は、大友宗麟が毛利氏を北部九州から退けるために、永禄12年(1569)11月に大内輝弘を将として海路から周防に奇襲をかけた戦いに関連するもの。輝弘の渡海を成功させるために、同年9月13日付で「岩戸」(現福岡県那珂川市)に集結するように宗麟が命じた内容である。

『大分県先哲叢書 大友宗麟資料集 第4巻』に収められている史料によると、同様の書状が、野上治部少輔、五条鎮定、蒲池鑑広、田北鑑忠、田尻鑑種の各人に宛て出されている。おそらく、玖珠郡衆、筑後の国衆などの大友氏配下の有力な領主たちを「岩戸」に集結させ、毛利方の前線である宝満城・岩屋城の城主高橋鑑種を攻めると共に、後方支援をおこなっている毛利方を北部九州に釘付けにしようとしたものと考えられる。

なお、本文書は、年号の記載や文面が一致することから『大分県史料(13) 第二部』に所収されている「玖珠郡九重町字恵良井上梅二郎氏所蔵」の3号文書とみられ、宛所が欠損しているが、4号文書が玖珠郡衆の松木五郎左衛門尉・松木和泉守に宛てたものである。そのことから、同じく松木氏へ出された内容と判断される。

(2) 『諸国奇観』 1点

縦 27cm×横 19.5cm

本書は、川上藤兵衛正澄が諸国を友人と巡り、この時に目にした日本各地の珍しい眺めや風景を図入りで紹介したもので、文政8年(1825)に早水文庫に納められたものである。

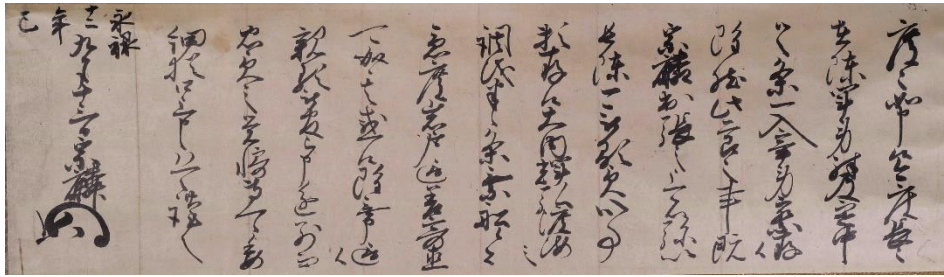
川上藤兵衛正澄は実在の人物で、文政7年(1824)に発行された『江戸買物独案内』に登場する日本橋通三丁目の白髪染葉家主・大坂屋藤兵衛と同一人物と判断される。

本書には、日本各地の名勝が108図描かれ、大分県では、豊後鶴崎(大分市)、豊後佐賀関(大分市)、豊後別府温泉(別府市)、豊前宇佐八幡(宇佐市)、豊前石の羅漢(中津市)などが認められる。

豊後佐賀関や豊前宇佐神宮、豊前羅漢寺を訪れた、備中(岡山県)の地理学者古川古松軒が纏めた『西遊雑記』(天明3年・1783)と比較すると、本資料は構図が異なるものが多く、詳細に描かれていることから、本書序文のとおり、実際に現地に赴き描いたものと考えられる。

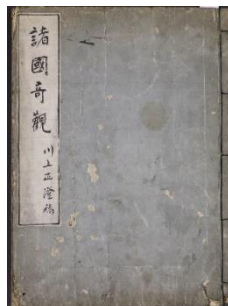
豊後鶴崎においては、熊本藩細川家の御座船や船倉の様子が詳しく描かれており、大変貴重である。

多くの名所図が製本を前提に作られており、見開き二頁に一つの風景を描いていることから、本書は出版するために作成された原図と判断される。

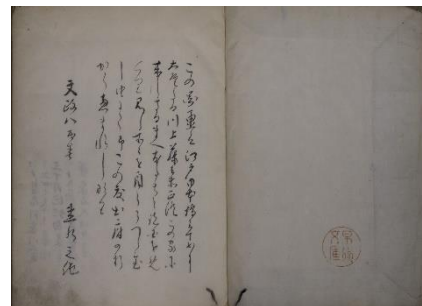


(1) 大友宗麟書状

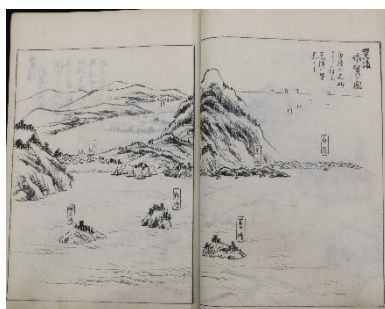
永禄 一二 九月十三日 宗麟（花押） 巳 年	（釈文） 度々如申候、今度長々 在陳軍勞、殊及寒中 候之条、一入辛勞察存候、 雖然此節之事、既 宗麟出張之上者、彌以 長陳可被顯貞心事、 頼存候、大内輝弘渡海之 調儀半候条、乗船候者、 急度岩戸迄差寄、直可成其 感候、雖無申迄候、 親類被官申遂、別而 忠貞之覺悟專一候、委 細猶口上申候、恐々謹言、
---------------------------------------	--



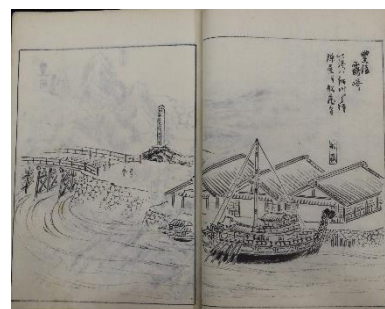
(2) 諸国奇観



(2) 諸国奇観 序文



(2) 諸国奇観 豊後佐賀関



(2) 諸国奇観 豊後霧崎

教 育 普 及 活 動

ふるさとの歴史再発見

高校生以上を対象に、歴史、考古、民俗・文化史、古文書の4コースの講座を下記の日程で開講。
定員：70名／受講料：各コース300円／時間：14時～15時30分

(1)考古のコース 期間 4月～6月 各指定の土曜日 受講申込者数(61人) 受講者総数(216人)

実施日	内容	講師	受講者
4月27日	「大分市の歴史の道」	塩地潤一（当館職員）	50人
5月11日	「奈良・平安時代の歴史の道」	中西武尚（大分市教育委員会）	45人
5月25日	「戦国時代の歴史の道と大友館跡」	松浦憲治（大分市教育委員会）	39人
6月8日	「江戸時代の歴史の道と府内城」	小野綾夏（大分市教育委員会）	40人
6月22日	「県内最大の弥生時代の集落跡 諫山遺跡」	小柳和宏（大分県立埋蔵文化財センター）	42人

(2)歴史のコース 期間 7月～9月 各指定の土曜日 受講申込者数(68人) 受講者総数(246人)

実施日	内容	講師	受講者
7月13日	「長崎警備と府内藩～高崎山の烽火をとおして～」	武富雅宣（当館館長）	52
7月20日	「大分ゆかりの江戸時代の禅僧たち」	植木和美（当館職員）	49
8月3日	「府内藩記録にみる府内城下町」	串間聖剛（大分市教育委員会）	47
8月31日	「大分県の禅文化」	高宮なつ美（大分県教育庁文化課）	50
9月14日	「耳川合戦後の大友氏」	広津留三紗（当館職員）	48

(3)民俗・文化史のコース期間 10月～11月 各指定の土曜日 受講申込者数(53人) 受講者総数(151人)

実施日	内容	講師	受講者
10月12日	「大分の禅と食 府内の名物『鮑腸』」	樋口和紀（当館職員）	41
10月26日	「道元禅師としたいけ」	段上達雄（別府大学教授）	40
11月9日	「国分寺周辺史跡散策ウォーキング」	植木和美、塩地潤一、河野史郎、 樋口和紀、吉竹千穂（当館職員）	38
11月23日	「ウナギにまつわる信仰 水の神の使いとして」	吉竹千穂（当館職員）	32

(4)古文書のコース 期間1月～3月 各指定の土曜日 受講申込者数(69人) 受講者総数(175人)

実施日	内容	講師	受講者
1月25日	「大友宗麟書状」	広津留三紗（当館職員）	63
2月8日	「府内藩記録補遺」	武富雅宣（当館館長）	61
2月22日	「府内藩記録補遺」	植木和美（当館職員）	51
3月7日	「府内藩記録補遺」	植木和美（当館職員）	中止
3月21日	「府内藩記録補遺」	武富雅宣（当館館長）	中止

学校・団体の利用

大分市内の小中学校を中心に子ども会やPTA、家庭教育学級、児童育成クラブなどさまざまな団体による体験活動の利用があった。

☆ 移動講座（出張歴史教室）歴史体験をより多くの学校、団体に活用してもらうために、依頼のあった学校や公民館に出かけて体験学習を実施した。

<学校・団体体験活動利用数>

※学校・団体利用には、公園利用を含み、講座受講生を含まない

	利用団体数				利用者数				合計
					資料館		移動講座		
	学校	団体	移動	合計	児童・生徒	大人	児童・生徒	大人	
4月	1	14	3	18	1,068	380	208	18	1,674
5月	3	12	2	17	570	553	0	43	1,166
6月	3	10	4	17	143	215	563	279	1,200
7月	7	9	11	27	401	375	325	135	1,236
8月	6	8	11	25	189	408	325	188	1,110
9月	12	9	2	23	552	333	29	23	937
10月	20	9	6	35	2,213	382	290	455	3,340
11月	16	10	4	30	2,192	576	11	71	2,850
12月	2	8	1	11	74	145	0	9	228
1月	10	6	2	18	985	302	0	44	1,331
2月	13	7	3	23	999	550	445	42	2,036
3月	0	3	0	3	36	123	0	0	159
計	93	105	49	247	9,422	4,342	2,196	1,307	17,267

ふれあい歴史体験講座

親子や一般市民を対象に、下記の歴史体験講座を実施。

時間：午前9時30分～/午後2時～

回	実施日(土曜日)		内容	参加者		
				子ども	大人	計
1	4/20	午前・午後	勾玉作り	51	51	102
2	5/18	午前・午後	土偶作り	17	19	36
3	6/1	午前・午後	土笛作り	24	18	42
4	6/15	午前・午後	粘土はこわ作り	29	25	54
5	7/6	午前・午後	七夕飾り作り	27	22	49
6	8/10	午前・午後	粘土はこわ作り	59	47	106
7	8/17	午前・午後	土面作り	16	17	33
8	8/24	午前・午後	土偶作り	7	7	14
9	9/7	午前・午後	織物作り	10	14	24
10	9/21	午前・午後	紙かご作り	3	59	62
11	10/5	午前・午後	藤芯かご作り	4	42	46
12	11/16	午前・午後	土の鈴作り	16	25	41
13	1/11	午前・午後	和風作り	34	27	61
14	1/18	午前・午後	ぞうり作り	9	50	59
15	2/1	午前・午後	折り紙雛作り	68	82	150
16	2/15	午前・午後	勾玉作り	90	88	178
17	3/14	午前・午後	火起こし			中止
合計				464	595	1059

体験講座	材料費
土偶作り	180 円
粘土はこわ作り	250 円
勾玉作り	250 円
土笛作り	70 円
七夕飾り作り	100 円
土の鈴作り	70 円
土面作り	150 円
管玉・丸玉作り	280 円
紙かご作り	150 円
藤芯かご作り	460 円
和風作り	230 円
折り紙雛作り	200 円
火起こし	無料
織物作り	200 円
ぞうり作り	100 円

昔のおもちゃで遊ぼう！

子どもの日に昔ながらの手作りおもちゃで遊んでもらう体験講座を実施した。人気の大正2年に作られた消防ポンプ「竜吐水」による放水体験も行った。

実施日：5月5日（日） 9時～16時

料金：無料

内容：昔のおもちゃ（割箸紙飛行機・竹トンボ・竹馬・竹カップカッポ・こま・竹弓矢・羽子板・シャボン玉・わなげ・ゴム鉄砲・糸電話・切り絵・おはじき）、竜吐水

参加者：271名



昔のおもちゃ（シャボン玉）

勾玉作り教室

夏休みと秋に、事前申込不要で勾玉作りを楽しんでもらう講座を2回実施。

受付時間：9時～11時 13時～15時

材料費：1セット250円

回	実施日		参加者		
			子ども	大人	計
1	7月27日（土）	午前・午後	131	150	281
2	11月2日（土）	午前・午後	56	47	103
合計			187	197	384



勾玉作り（削り作業）

夏休みジュニア歴史体験

小4～中学生を対象に、資料館のバックヤード見学や史跡公園を巡る歴史体験、鏡作り体験を実施した。

実施日：8月1日（木）9時30分～15時30分

参加者数：20名

参加料：500円



夏休みジュニア歴史探検

職場体験学習の受け入れ

小学生～高校生を対象に、資料館職員の仕事を体験。

	学校数	受入日数	のべ人数
小学校	1校	1日	11人
中学校	4校	10日	41人
高校	1校	1日	1人
合計	6校	12日	53人



職場体験

歴史教育研修

小・中学校教職員を対象に歴史教育に関する研修を開催。

実施日	内容	参加者
6/13(木)	放課後講座 歴史教育セミナー	3
7/30(火)	郷土の歴史と文化財研修1 現地学習（野津原宿場まち見学）	12
8/2(金)	初任者研修 郷土の歴史と文化	85
12/26(金)	郷土の歴史と文化財研修2 歴史資料館の体験活動	8
合計		108



歴史教育研修（資料館体験）

博物館実習

実習生を3名受け入れて下記のとおり実施した。

実施日	内容	主な職員
8/16(金)	資料館の活動/施設ガイダンス 等	武富・井福
8/17(土)	資料の整理・取扱い、(考古)/体験活動講習 等	志賀・樋口
8/18(日)	展示ガイダンス/企画展の実施 等	塩地・樋口
8/20(火)	資料の整理・取扱い、(民俗)/資料の展示準備 等	塩地・樋口
8/21(水)	資料の整理・取扱い、(考古)/体験活動講習 等	河野・井福
8/22(木)	資料の写真撮影/レポート作成 等	塔鼻・井福



博物館実習の様子

展示解説講座

テーマ展示及び特別展の見どころについて、展示会場において学芸員が解説を行った。

時間：14時～ 料金：無料

実施日	内容	参加者
5/12(日)	テーマ展示Ⅰ 「解体新書の世界」	81
8/4(日)	テーマ展示Ⅱ 「豊後の南蛮文化」	21
10/6(日)	特別展 「大分の禅」	66
2/9(日)	テーマ展示Ⅲ 「江戸・明治の木版画」	48
合計		216

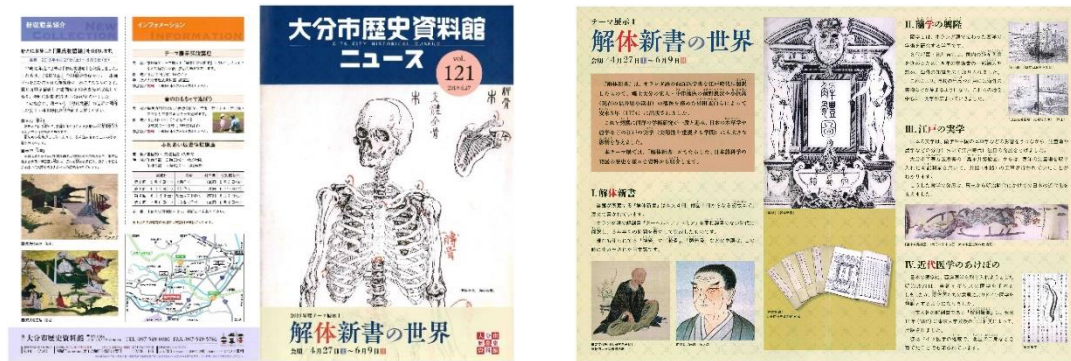


特別展解説講座

刊行物

名称	規格	頁数	部数
資料館ニュース 121 号	A4	4	7,000
資料館ニュース 122 号	A4	4	7,000
資料館ニュース 123 号	A4	4	7,500
第38回特別展図録	A4	56	1,000

※年報はホームページに掲載予定



資料館ニュース 121 号



資料館ニュース 122 号



資料館ニュース 123 号

ビデオライブラリー

館蔵ビデオの上映サービスを実施。

時間：随時 料金：無料

月	視聴者数		
	子ども	大人	合計
4月	0	59	59
5月	147	281	428
6月	0	110	110
7月	127	205	332
8月	55	87	142
9月	0	88	88
10月	0	69	69
11月	86	251	337
12月	0	40	40
1月	0	61	61
2月	41	130	171
3月	126	189	312
合計	582	1,567	2,149

資料の利用・貸出

(1) 資料の利用提供

件名	件数
熟覧・写真撮影	43 件
テレビ撮影・雑誌等の取材	41 件
印刷物掲載・写真貸与	33 件

(2) 資料の貸出

団体名	展示会名	点数
大分県立博物館	特別展「来豊者―彼らが見たおおい―」	5 点
大分県立先哲史料館	企画展「大分のキリスト教史」	6 点
大分県立美術館	企画展「日本の美意識―刀剣と金工―」	1 点
大分県立埋蔵文化財センター	企画展「宗麟とキリスト教―地中に眠るキリシタンの時代―」	3 点
大分県立埋蔵文化財センター	企画展「考古学どうぶつワンダーランド」	15 点
行橋市歴史資料館	特別展「山城と武士の歴史」	1 点
日出町歴史資料館	コーナー展示「日出藩の参勤交代」	1 点

広報事業

令和元年度は、以下の施設等に総合案内・歴史資料館ニュースの配布・掲示等のPR活動を実施。

学 校	小・中学校（市内）	84 校
	小学校（市外）	67 校
	高等学校・大学等	44 校
行 政	市役所関係	85 ヲ所
	県庁関係	3 ヲ所
	県内自治体	18 ヲ所
博 物 館	県外博物館	201 ヲ所
	県内博物館	22 ヲ所
	県外埋文センター・大学付属博物館等	93 ヲ所
そ の 他	市政記者クラブ（随時）	21 社
	県内マスコミ	17 社
	交通機関・一般施設等	54 ヲ所

市民学芸員の活動

市民や地域により身近な資料館をめざし、平成 24 年度より始まった「市民学芸員」。

令和元年度は、14 人が登録し、「資料グループ」、「解説グループ」、「体験グループ」の 3 つに分かれ、のべ 101 回にわたって活動した。



市民学芸員の活動風景（体験グループ）

歴史資料館利用状況

月別観覧者数

単位：人

年／月		開館日数	観覧者数						講座室利用者数										総合館計者	総来	
			一般			団体			合計	一般		資料館講座				映画会		合計			
			大人	高校生	中学生	小学生	大人	高校生		中学生	小学生	大人	小中高生	歴史講座 解説講座	資料館 主催 体験講座	資料館 学校等 体験教室	大人				小中学生
31/4	26	409	7	12	102	144	2	0	1,066	1,742	186	4	50	102	1,572	50	0	1,964	3,706		
元/5	27	694	8	10	106	578	0	8	559	1,963	162	0	165	326	840	318	233	2,044	4,007		
6	26	369	6	4	41	177	0	54	89	740	99	0	82	96	1,104	160	101	1,642	2,382		
7	25	440	2	9	62	297	1	27	373	1,211	147	0	101	330	906	291	347	2,122	3,333		
8	26	594	5	20	102	407	0	0	83	1,211	165	0	118	173	937	413	190	1,996	3,207		
9	22	386	1	2	79	261	0	15	537	1,281	128	197	48	86	851	121	13	1,444	2,725		
10	28	935	8	10	71	591	0	4	2,109	3,728	113	0	219	46	3,294	266	28	3,966	7,694		
11	23	552	0	2	50	541	0	0	1,507	2,652	83	0	70	144	2,706	142	72	3,217	5,869		
12	23	281	12	4	49	25	0	3	71	445	129	0	0	0	228	0	0	357	802		
2/1	23	463	4	6	63	258	0	0	953	1,747	227	0	63	194	1,137	194	953	2,768	4,515		
2	24	715	4	4	116	335	1	1	761	1,937	245	0	160	687	1,349	329	763	3,533	5,470		
3	17	346	2	1	60	0	0	0	0	409	155	0	0	69	90	0	0	314	723		
合計	290	6,184	59	84	901	3,614	4	112	8,108	19,066	1,839	201	1,076	2,253	15,014	2,284	2,700	25,367	44,433		

※団体観覧者数には、講座受講者を含み、公園利用のみの団体は含まない。

管 理 及 び 運 営

1. 歴史資料館協議会

第1回 開催日 令和元年7月25日（木）

会場 大分市歴史資料館 会議室

- （1）委嘱状の交付
- （2）委員・職員紹介
- （3）議事

1 報告事項

- ①平成30年度事業報告
- ②令和元年度事業報告及び経過報告

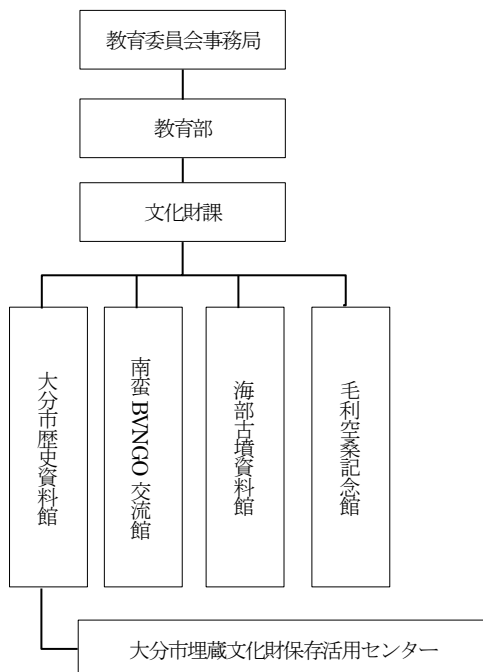
2 協議事項

- ① 今後の企画展展示内容
および展示資料について

氏名	役職	備考
平井 義人	日出町歴史資料館・ 帆足万里記念館 館長	学識経験者
篠崎 悠美子	別府大学 教授	学識経験者
田中 裕介	別府大学 教授	学識経験者
阿部 辰也	大分県立歴史博物館館長	行政関係者
川口 洋	大分市小学校校長会代表	学校教育 関係者
久保 隆	大分市中学校校長会代表	学校教育 関係者
熊谷 恵	大分市PTA連合会代表	社会教育 関係者

2. 組織機構・分掌事務・職員・歳入歳出

（1）組織機構



（2）分掌事務

- ①資料館の施設及び設備の維持管理並びに使用に関すること。
- ②歴史資料、考古資料、民俗資料等（以下「歴史資料等」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- ③常設展示及び特別展示の企画及び実施に関すること。
- ④歴史資料等に関する専門的及び技術的な調査研究を行うこと。
- ⑤歴史、考古、民俗等（以下「歴史等」という。）についての講演会、講習会、研究会、映写会等の開催に関すること。
- ⑥学校、図書館、公民館等の諸施設に対する歴史講座等についての協力及び活動の援助に関すること。
- ⑦歴史資料等についての案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の刊行に関すること。

(3) 職員

(令和2年3月31日現在)

職名	氏名	職名	氏名
館長	武富雅宣	管理普及担当 班長 参事補	志賀良史
学芸調査担当 班長 参事	植木和美	参事補	河野史郎
参事	塩地潤一	主査	大野三雄
主査	吉野晃次	主査	永松正大
主査(再)	塔鼻光司	主査(再)	久多羅岐明
主事	井福裕樹	主任	河野美穂
嘱託職員	樋口和紀	嘱託職員	佐藤絵里子
嘱託職員	吉竹千穂	嘱託職員	馬場宏之
嘱託職員	米倉加奈絵	嘱託職員	広津留三紗
嘱託職員	荒木伴世	嘱託職員	手嶋俊豪
臨時職員	大濱賀世子	臨時職員	嘉藤成紗

(4) 歳入歳出

(R1 実績) 単位: 千円

歳入		歳出	
科目	金額	科目	金額
観覧料・ 講座室利用料	673	管理運営費	50,376
歴史講座受講料	71	企画展費	7,370
図録売払代金	304	資料購入費	436
雑収入	1		
雇用保険徴収金	5		
計	1,054	計	58,182

3. 施設管理業務の内容

(1) 施設管理業務の一部委託

【年間管理業務委託】

- ①警備・・・朝日警備保障㈱
- ②清掃(館内及び受水槽・高架水槽)・・・(有)日本ビルサービス(館外)・・・(有)協和環境
- ③電気工作物保安管理・・・日本電気保安㈱
- ④空調設備(冷暖房)保守点検整備・・・日本暖房鉄工㈱
- ⑤消防設備点検・・・新日本消防設備㈱
- ⑥エレベーター保守点検・・・ゾック㈱西日本支社九州支店
- ⑦自動ドア保守点検・・・大分ナブコ㈱

- ⑧浄化槽維持管理・・・(株)ダイカン
- ⑨地下タンク等漏洩検査・・・(有)二豊サービス
- ⑩ボイラー保守点検・・・日本暖房鉄工㈱
- ⑪収蔵庫内ガス燻蒸・・・(株)大分イカリテクノス
- ⑫燻蒸設備保守点検・・・環境技術
- ⑬豊後国分寺史跡公園及び歴史資料館緑地帯年間管理・・・(有)エスエス緑化産業
- ⑭衛生害虫防除作業・・・(株)大分イカリテクノス
- ⑮貯水槽清掃・・・(有)日本ビルサービス
- ⑯衛生害虫防除・・・(株)大分イカリテクノス
- ⑰モニターカメラ設備保守点検・・・大分音響㈱
- ⑱防火シャッター・防火戸法定点検・・・新日本消防設備㈱
- ⑲データベースメンテナンス(ソフト)・・・早稲田システム開発㈱
- ⑳豊後国分寺史跡公園公衆便所清掃・・・(有)協和環境

【施設保守】

- ①浄化槽ブロワ配管設置・・・(株)ダイカン
- ②屋上清掃・・・(有)協和環境
- ③機械室排水管洗浄・・・(有)九州管通
- ④屋外トイレ塔屋塗装・・・(有)ナギシステム
- ⑤石碑文字塗装・・・(株)アド・サイン
- ⑥記念碑周辺樹木剪定・・・(有)エスエス緑化産業
- ⑦屋根瓦撤去・・・(株)ふじの瓦店
- ⑧豊後国分寺史跡公園枯木撤去・・・(有)エスエス緑化産業
- ⑨屋上防水改修設計・・・工藤雅史建築研究所

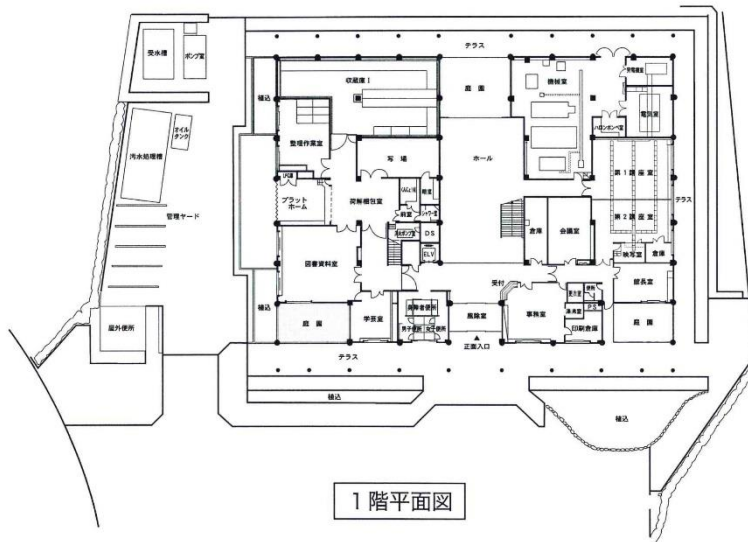
【修繕】

- ①事務室系統エアーハンドリングユニット異音
応急処置作業・・・日本暖房鉄工㈱
- ②キュービクル換気扇・・・日本電気保安㈱
- ③浄化槽機械室(換気扇及び温度スイッチ)・・・(株)ダイカン
- ④事務室系統エアーハンドリングユニット部品
取替・・・日本暖房鉄工㈱
- ⑤防火シャッター・・・新日本消防設備㈱
- ⑥誘導灯・・・新日本消防設備㈱

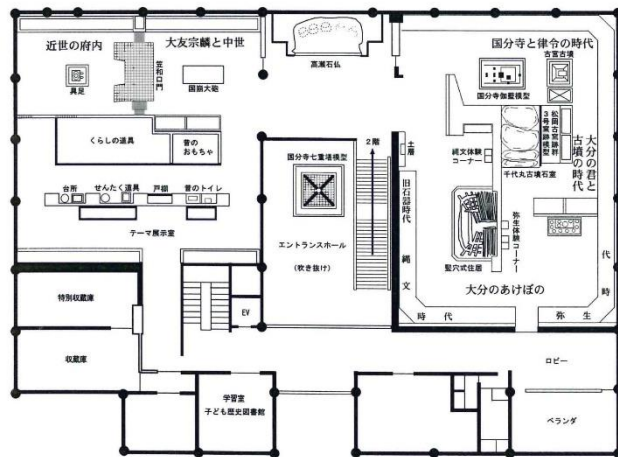
【工事】

- ①屋上防水改修工事・・・大分サンダイン㈱
- ②2階トイレ改修・・・(有)ナギシステム・(有)フクダ工業
- ③駐車場横屋外トイレ改修・・・(有)ナギシステム

施設の概要



1 階平面図



2 階平面図

＜階別室別床面積＞
1 階平面図

階別	部門	室 名	面積(m ²)
1 階	教育普及	第1講座室	63.72
		第2講座室	47.83
		映写室	8.23
		小 計	119.78
	サービス	エントランスホール	215.05
		その他	131.25
		小 計	346.30
	事務管理	館長室	30.37
		事務室	46.54
		会議室	38.20
		倉庫	33.69
		更衣室	3.72
		その他	14.73
		小 計	167.25
	学芸調査	学芸調査	80.93
		学芸室	25.22
		写場	48.37
		小 計	154.52
	収蔵	燻蒸室	6.75
		整理作業室	49.00
		プラットフォーム	31.50
		荷解梱包室	52.02
		収蔵室	135.67
		小 計	274.94
		機械室	197.54
		ERV他	10.06
		小 計	207.60
		1 階計	1270.39

2 階平面図

階別	部門	室 名	面積(m ²)
2 階	展示	第1展示室	362.25
		第2展示室	243.00
		テーマ展示室	85.50
		小 計	690.75
	収蔵	収蔵庫	41.62
		特別収蔵庫	41.62
		小 計	83.24
	サービス	学習室	33.63
		ホール	87.51
		ロビー他	260.30
		小 計	381.44
	管理	A・C機械室	59.61
		その他	59.61
		小 計	59.61
		2 階計	1215.04
塔屋	管理	排煙機械室	9.33
		ポンプ置場	24.75
		階段その他	8.61
		塔屋計	42.69
屋外	管理	便所	24.30
		ポンプ室	12.50
		屋外計	36.80

総 計	2614.92
-----	---------

利 用 案 内

開館時間 9時～17時（入館は16時30分まで）

休 館 日 毎週月曜日（祝日の場合は開館）

ただし、毎月第1月曜日は開館し、翌火曜日が休館（祝日は開館）

祝日の翌日（土・日曜日の場合は開館）

年末年始（12月28日～1月4日）

観 覧 料 大 人210円（団体150円） 高校生100円（団体50円） 中学生以下は無料

*団体は20名以上

*特別展開催中は、
別料金となる場合があります。

交通機関 JR久大本線

◎豊後国分駅下車：徒歩2分

大分自動車道

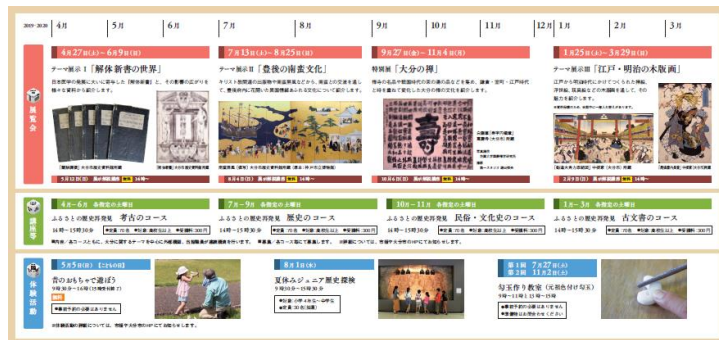
◎大分I.C・光吉I.C.よりともに
約15分



大分市歴史資料館アクセスマップ



令和元年度総合案内チラシ(表)



令和元年度総合案内チラシ(裏)



大分市歴史資料館年報

2020

発行日 令和 3 年 5 月 1 日

編集・発行 大分市歴史資料館

〒870-0864 大分市大字国分 960 番地の1

TEL(097)549-0880 FAX(097)549-5766
